

こども未来課通信 No. 27

2023. 12. 11 発行:長崎県こども未来課



～向陽幼稚園の先生方、ありがとうございました！～

師走に入り、本格的な冬の寒さを感じる季節となりました。寒さに負けず、冬の遊びや行事等に取り組み、子どもも先生方も元気に毎日を過ごされていることと思います。

さて、去る11月2日に、文部科学省 幼児教育の理解・発展推進事業 長崎県委託 幼児教育研究協議会が大村市の向陽学園向陽幼稚園で開催されました。46名の参加者があり、向陽幼稚園の素晴らしい研究成果発表と参加者による活発な研究協議が行われ、深まりのある研究協議会となりました。

向陽幼稚園による研究成果のプレゼン発表

10の姿を日々の記録の視点として活用するため、職員全体でその視点を共有する取組の具体が示され、その実践が園全体における保育の質の向上や職員間の対話が増え組織の連携につながったこと等が成果として発表されました。



熱い意見交換がなされた研究協議会

向陽幼稚園の先生方が各班にファシリテーターとして入り、協議の視点を明確にすることで、10の姿を意識した記録や子どもの主体性を引き出す保育者の支援や環境構成について様々な意見が出されました。



(研究のまとめから)

- 研究の過程で試行錯誤する中で職員間の対話が増え、失敗と気づきを繰り返していくことで次につながるヒントが見つかり、日々の葛藤が個々の保育力を向上させ、全体の保育の質の向上につながっていくことを実感できた。
- この研究を通して、幼児教育の中で育みたい資質や能力は今後の育ちに向けた重要なものであり、卒園まで子どもを育てればよいのではなく、長い人生を見据えて、幼児期の過ごし方や今経験しなければならないこととしっかり向き合うことが大切だと感じた。



～先生方のやる気がアッフ！ やまだこども園の訪問支援から～

「利用して良かった！」という多くの嬉しいお声をいただいております幼児教育アドバイザー訪問支援、皆さんはもう利用されましたか。

先日は、「指導要録の書き方・記入する上でのポイントを、具体的な例文を使って教えてほしい。」という依頼を受け、やまだこども園の先生方と学びを深めました。内容が指導要録に関することでしたので、幼児教育アドバイザーだけでなく、指導職（小学校教員）の職員も訪問に加わりました。各グループに一人ずつ、センターの職員がファシリテーター役で入り、読み手に伝わる書き方のポイントについて確認したり、その視点で自分たちの園の要録を見直したりするワークを行いました。指導要録のためには、日々の保育と記録が重要であるということにも意識が向けられ、先生方の研修に臨む前向きな姿勢がとても印象的でした。研修の終わりには、爽やかな先生方の笑顔とともに「明日からまた日々の保育を頑張ります！」と力強い言葉をいただきました。



今後も保育についてのアドバイスや園内研修など保育の質の更なる向上に向けてアドバイザーを活用ください。まずは、ホームページから依頼書をダウンロードしてお申し込みください。

県幼児教育センター（直通）095-895-2686
(FAX) 095-895-2554



～子どものよきモデルに～

今年度も、質の高い幼児教育・保育を目指し、様々な研修が行われました。それぞれのキャリアステージで学びを深められる先生方の姿を嬉しく思うと同時に、少し残念な状況も見られました。

（今年度、研修において見られた例）

- ・受講申込みの締切が守られていない。
- ・受講申込みをしていることを本人が忘れ、管理職も把握していない。
- ・事前提出資料について失念し、催促を受ける。
- ・確認不足で携行品を忘れる。
- ・連絡もなく、遅刻する。・無断欠席する。・研修にふさわしくない服装で参加する。

子どもの人的環境として、大人がよきモデルになることが要領等でも求められています。今一度、保育者個人として、園（所）組織として、研修に臨む姿勢について改めて考えていただければと思います。

（文責：こども未来課 石田 久美子）